

国語、数学、技術・家庭、自立活動	作業学習：(特)国語、(小)算数、(特)職業・家庭、自立活動
実態 <ul style="list-style-type: none"> 誰かの役に立ちたいという思いがある 実際の仕事を体験したことがない 小集団で役割分担をして作業ができる 	目標 <ul style="list-style-type: none"> 作業を通して仕事について知る 作業等を通して、自己有用感を得る 報告・連絡・相談ができる
実践 配布準備の依頼があったら… <ul style="list-style-type: none"> 教職員から仕事の依頼を受け、生徒が仕事内容の聞き取りを行う 何を、いつまでに、どうするのか等を聞き取り、メモをとる (数量、締切日、納品場所 など) 聞き取った内容を担任に報告する 作業をする 分担をして役割をやり遂げる (どの学年を担当するか、数える係・確認する係 など) 仕事が終わったら教員に報告し、確認を受ける 確認後、仕事が終わっていないところがあれば手伝う 依頼者に納品する 	
担任の願い <ul style="list-style-type: none"> 生徒が、交流学級担任や依頼者から「助かったわ」等の言葉を聞き、自分の行った仕事がどのように人の役に立つのかを感じ、感謝される経験を積むことで自己有用感へとつなげられるようにする どうすれば正しくできるのか、速くできるのかなど、得意な方法を生徒自身が考えられるようにする 印刷や清掃、お茶の提供など、学校生活に関わる内容を扱うことにより、他の教職員とともに生徒の成長を考えることにつなげる 	

依頼者が不在の場合など、想定外のことにも対応できるように、具体的にどのようなすればよいのかを体験しながら学習する

過不足があったときの「〇枚、足りない」「〇枚だった」など生徒の実態に合わせて、声のかけ方を変える

国語、技術・家庭、自立活動	作業学習：(特)国語、(特)職業・家庭、自立活動
実態 <ul style="list-style-type: none"> 将来の自分についてのイメージをもつことが難しい 学校では自分の気持ちを伝えたり、作業に集中したりすることができる 	目標 <ul style="list-style-type: none"> 今後の自分について考える 職場体験でもっている力を発揮する
実践 <ul style="list-style-type: none"> 事前学習として、働くことについて考える 働いている先輩を招いての座談会 今の自分・将来の自分について考える 適切な身だしなみやふさわしい言葉遣いについて知る 職場体験を行う 事後学習として、報告会を行う 目標の振り返りや実習ノートの書込み 体験報告会で発表 	
<p>お礼状や報告会での発表方法として、文章で書く、絵で描く、音声、動画などから生徒が選べるようにする</p>	
担任の願い <ul style="list-style-type: none"> 中学校の職場体験に限らず、作品展の受付など短時間での体験も取組内容として考えられる 実習を通じて、生徒自身が、将来「〇〇できるようになりたい」など今後の目標について考えられる力を育む キャリア教育の視点から付けたい力を考え、他の教科とも関連付けて取り組み、生徒のもてる力を伸ばす 	





特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）では、視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者及び病弱者である子どもに対する教育を行う特別支援学校における各教科の内容の取り扱いについて、障害の特性等に応じた指導上の配慮事項に関する記述が充実されました。

以下に、肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害に関する記述を、それぞれ抜き出しました。

肢体不自由


- (1) 体験的な活動を通して言語概念等の形成を的確に図り、児童生徒の障害の状態や発達の段階に応じた思考力、判断力、表現力等の育成に努めること。
- (2) 児童生徒の身体の動きの状態や認知の特性、各教科の内容の習得状況等を考慮して、指導内容を適切に設定し、重点を置く事項に時間を多く配当するなど計画的に指導すること。
- (3) 児童生徒の学習時の姿勢や認知の特性等に応じて、指導方法を工夫すること。
- (4) 児童生徒の身体の動きや意思の表出の状態等に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫するとともに、コンピュータ等の情報機器などを有効に活用し、指導の効果を高めるようにすること。
- (5) 各教科の指導に当たっては、特に自立活動の時間における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。



肢体不自由のある子どもに必要な指導内容の一つとして、生活経験の拡大があり、担任として、体育の授業では、直接的な経験が少ない子どもに配慮し、ゲームの参加の仕方等、様々な工夫を考えています。

肢体不自由 中学校

シッティングバレーボール

<p>体育</p> <p>実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上肢機能軽度障害、体幹機能障害、起立困難 ・車いすを使用 ・知的に遅れはないが、書字や作業に時間がかかる 	<p>体育</p> <p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネット型の特性を生かし、楽しくゲームを行うことができる
<p>実践</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>準備するもの バドミントンコート、ネット（高さは実態に合わせて調整）、ボール（ビーチボール、ソフトバレーボールなど実態に合わせて選択）</p> </div> <p>複数の生徒が必ずボールに触れてから相手コートに返球する、レシーブでゲームを始めるなど、ルールを決める</p> <div style="float: right; text-align: center;">  </div> <div style="float: right; border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>多くの生徒がゲームに参加できるか、楽しめるかを考えて、みんなで相談してルールを決める</p> </div>	
<p>担任の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害の有無に関係なく、支援を必要とする生徒に配慮した工夫をし、一緒に運動する環境をつくる ・車いすから降り、運動を行う場合には細かな配慮が必要となることを意識して、教員はコミュニケーションをとりながらそれぞれの生徒のニーズをしっかりと把握した上で指導する ・生徒が体験的な活動を通して、感じたことや気付いたことなどを言語化する力を育てる ・チームでコミュニケーションを取り合うとき、言葉だけでなく身振りなど、補助的手段の活用を促す 	